

## ロヒンギャ難民支援の現場から

公益財団法人日本ユニセフ協会は、2018年1月11日(木)ユニセフハウス(東京都港区)にて、ユニセフ・バングラデシュ事務所代表エドゥアルド・ベイグベデル氏によるロヒンギャ難民支援報告会を開催しました。

### 古くて新しい問題

ロヒンギャの問題は、決して新しいものではなく、ミャンマー独立以来続く問題です。これまでも、78年、91年、2012年、2016年12月とロヒンギャの人々の国外流出は起こっていました。しかし昨年8月に始まった今回の流出は、これまでの規模とは大きく異なります。数週間という短期間に65万5,000人を超える新たな流出があったのです。

すでにバングラデシュ国内にいた難民25万人と合わせると、コックスバザールには今およそ100万人が逃れ、さらにホストコミュニティに身を寄せる20~30万人を加えると、合計120万人が故郷から逃れて来ていると見られています。現在、難民キャンプに登録されている難民は4万5,000人ですが、仮設キャンプや居住地区、自発的にできたキャンプもあり、それらの場所に相当数の人々が暮らしています。もともとコックスバザールはバングラデシュ国内でも最も貧しい地域です。そこに新たに、難民問題が降りかかったのです。



©UNICEF JAPAN2018/Chizuka

登壇した、ユニセフ・バングラデシュ事務所代表エドゥアルド・ベイグベデル氏

### 急激な支援規模拡大へ

大量の難民流入が始まった8月25日以前、難民キャンプ内での活動は限られたものでした。教育の機会を得られていなかった子どもたちに非公式教育の場を提供したり、子どもにやさしい空間を設置するなどの活動が主でした。しかし、この8月25日を境に、私たちユニセフの活動の内容や規模、緊急度合は大きく変わりました。

10人程度だったフィールドオフィスは大幅に増員し、100人規模の体制になりました。そうした増員、物資調達、急増した活動団体とのコーディネーションなど支援体制の変更を進めつつ、並行して、政府やパートナーとプログラムについて協議し支援を開始しました。8月25日以前に活動していたNGOは5~6団体程度でしたが、今は40もの団体とパートナーシップを結び活動しています。民間企業からの動員やロヒンギャの人々の雇用もおこなっています。こうしたことすべてを同時進行で行うことで、活動の拡大を図りました。

支援を実行に移していく中で、ユニセフにとって大切な2つの柱があります。一つ目は「生存」、生き抜くことです。そのために重要なのは、予防接種を含む保健分野、水と衛生分野、栄養分野の支援です。2つ目の柱と私が考えるのは、「希望」です。子どもたちをできるだけ通常の生活に戻すということがこれに相当します。家族と離ればなれになった子どもを家族と再会させる、里親に託す、またミャンマーやキャンプ内で非常に深刻な経験をしている子どもたちに適切な心理社会的ケアを提供していくこと等が重要です。教育も、日常を取り戻すために非常に重要な分野です。朝起きて学校に行き、何かを学び、自分の将来について考えることができるのが教育の場だからです。



©UNICEF/UN0147300/Brown

何千人ものロヒンギャ難民の子どもたちが、支援物資を求めて長い列を作っていた(コックスバザール、2017年11月17日撮影)

### ユニセフの支援

#### <水と衛生>

人々に適切なサービスを提供するのは、時間との戦いです。たとえば、2,000カ所の安全な水場や1万9,500カ所の仮設トイレを設置する。45万人に公衆衛生に関するメッセージを届けるといった目標を掲げて、様々なパートナー団体と協働しながら取り組んでいます。

### <栄養>

難民の流入において、第一陣として入った人々はすぐにバングラデシュ国内に入れましたが、その後時間が経つにつれ、数週間をかけてようやく到着するといった難民が増えてきました。そうした難民の人々は、栄養状態が非常に悪い状態でキャンプにたどり着くのです。難民キャンプ内においても、不衛生な環境によって下痢が発生し、栄養不良に陥る子どもが多数確認されました。食料や栄養素が不足しているという事情もあり、一時期子どもたちの栄養状態が非常に悪化したため、当初の目標よりも多くの子どもたちに栄養不良の治療やケアを提供しています。

### <子どもの保護>

親とはぐれたり保護者のいない状態の子ども2,500人に対しては、家族の追跡調査や再会支援を行って行かなければなりません。惨劇を目撃した子どもたちへの心のケア、カウンセリングも強化していく必要があります。心のケアの一環として、内に秘めた感情を絵で表現してもらおうといったプログラムなどをおこなっています。その他、心理社会的ケアプログラムを通じて、追加的な支援が必要な子どもを特定していきます。



©UNICEF/UN0153998/knowles-Coursin

ロヒンギャ難民の子どもたちが描いた絵

このような緊急事態において忘れられがちな若者に対する支援、ジェンダーに基づく暴力などにも対応する必要があります。たとえば、ミャンマー国内でレイプされた少女が難民となってやってくる場合がありますが、もしレイプによって妊娠していたらどのような支援が必要なのか、また生まれてくる子どもにはどのように対応すべきなのか、支援を提供する側も体制を強化していく必要があります。また、初等教育を受けるには年齢が高すぎ、しかし働くには若すぎる若者たちが、訓練を受けライフスキルを身につけられるようにしてはなりません。

### <保健>

巨大なキャンプでは、保健分野の問題も巨大になります。特にロヒンギャの子どもたちのほとんどは、ミャンマーで予防接種を受けていません。そのため、コックスバザールでは感染症の発生がすでに見られます。ユニセフは政府による予防接種プログラムに協力し、はしか、ポリオ、コレラの予防接種を推し進めています。特にコレラは、過去にも世界の同様の緊急事態において多くの方が命を落としています。そのため、少しでも感染を軽減するために、キャンペーンの形で大きく展開しています。ジフテリアに対しても、すでに第1段階のキャンペーンを終えています。3月までに計3段階にわたって予防接種をおこなっていきます。

### <教育>

前述のとおり、緊急事態において、教育は子どもたちが日常をとりもどすために重要です。幼児教育、非公式教育は、すでに6万7,000人以上が受けられるようになりました。これは大きな成果ですが、全体に占める割合では未だ、教育が必要な子どもの1/3に留まり、この割合を高めていかないとはいけません。

これらの活動に必要な資金に関して、2017年は比較的確保できたため、前年からの繰越金で2018年の活動をスタートしていきます。しかし現在掲げている必要資金額で支援できるのは、難民キャンプ内の人々の半数強、受け入れコミュニティ内の難民の半数弱です。今後はキャンプ内だけでなく、受け入れコミュニティにも目を向けて対応していかなければならないと考えています。

### 希望につながる解決策を

課題は多く残されています。まず、政治的な課題。ロヒンギャ難民のミャンマーへの帰還については、ミャンマー国内での受け入れ体制が整うことが必須です。そのためには国籍や権利といった問題を解決しなければなりません。

その他にも、大規模で過密したキャンプ、食料や水などの物資の圧倒的な不足、スラムのような劣悪な生活環境、適切なサービスやプログラムが十分に行き渡っていないこと、道路アクセスの不足、様々な分野をまたいでの支援調整をどのようにおこなっていくのか等の課題があります。共に活動できるパートナーの数も限られています。たくさんの団体が活動していますが、多くは3カ月という短い活動期間しか許可されていません。支援団体間に不必要な緊張が生まれないう、役割分担も今後しっかりとやっていかなければなりません。

これらの問題に対応しながら支援を加速させていくときに最も重要なのは、やはり「生存」と「希望」だと考えています。「生存」だけでは十分ではありません。人々が生き延びた先に、将来への希望、つまり自分たちの生活がどうなるのか、子どもたちがどうなっていくのかを考えられるような状況になっていかなければなりません。この2点を支援の両輪にして、ユニセフは長期的な解決策を模索していきます。



©UNICEF/UN0155469/Sujan

ジフテリアの予防接種をうける、ロヒンギャの子ども

(コックスバザール、2017年12月21日撮影)

(公益財団法人日本ユニセフ協会ホームページより)

## ● ご支援をお願いします

### ロヒンギャ難民緊急募金

ロヒンギャ難民の子どもたちをご支援ください



2017年の夏にミャンマーで激化した暴力から逃れるために、少数民族のロヒンギャの人々はバングラデシュに逃れています。バングラデシュのコックスバザール南部には、すでに地元住民の人口を上回る68万8千人以上の難民が押し寄せており、過密するキャンプや仮設居住区で避難生活を送っています。この難民危機により子ども72万人を含む120万人の人々が、命と安全を守るための緊急の人道支援を必要としています。

#### ■ ゆうちよ銀行 募金口座

振替口座：00190-5-31000

口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会

・通信欄に「ロヒンギャ」「K1-350山口座」と明記願います。

・窓口での振り込みの場合、送金手数料が免除されます。

(公財)日本ユニセフ協会HPより

## 山口県ユニセフ協会の

### 活動報告

○山口県ユニセフ協会は昨年の10月13日に発足。前号で報告しました宇部市でのパネル展に引き続き、一人でも多くの方に「ユニセフ活動」や「山口県協会のこと」を知っていただこうと活動しました。

#### ■ ユニセフパネル展を西京銀行さんのご厚意で開催しました。

11月16日から22日の一週間、西京銀行本店で**長谷部誠選手が見た、感じた「レジリエンス」**、西京銀行周南支店で「**ユニセフによる戦後日本の子どもたちへの支援**」のユニセフパネル展を行いました。

さすがに長谷部誠選手の注目度は高く、多くの方に興味を持ってご覧いただきました。また長谷部誠選手の支援の様子を通じて、ユニセフの取り組みの重要性を感じていただくことができました。

「ユニセフによる戦後日本の子どもたちへの支援」では、当時ユニセフから支援された粉ミルクが、徳山港(周南市)に陸揚げされる様子も写っており、親近感を持って観ていただけました。



↑長谷部誠選手のパネル展の様子

#### ■ 他団体主催のイベントに、ユニセフ紹介コーナーで参加しました。

11月18日に開催されたコープやまぐち「**岩国センターまつり**」、11月23日に開催された柳井市主催の「**柳井まつり**」に、それぞれ**ユニセフ紹介コーナー**のブースを設けました。

両イベントとも来場者も多く、世界の子どもの現状やユニセフ活動について知っていただく良い機会となりました。当日はパネル展示に加え、ネパールの水がめやマラリア予防蚊帳なども展示し、ユニセフの活動を具体的にお伝えすることに努めました。

熱心に説明を聞いていただけた方、募金支援いただけた方との交流もできました。



←柳井まつりの様子



↓生協岩国センターまつりの様子

#### ■ 「ハンド・イン・ハンド」募金に県協会として取り組みました。

「手に手をとって」を意味する「**ハンド・イン・ハンド**」募金。この募金は毎年11～12月に行われ、事前登録すれば誰でも参加できるのが特徴。

山口県ユニセフ協会も、ユニセフボランティアの皆さんにお声掛けし、山口市、宇部市で街頭募金をおこないました。



↑微笑ましいハンド・イン・ハンドの光景

#### ■ ボランティアリーダー学習会を開催しました。

山口県協会は設立して間もないこともあって、まずは皆で勉強をと、隣県「**広島県ユニセフ協会**」の事務局長高田様を講師としてお招きし、ボランティアリーダー(地域事務局)の学習会を1月29日に開催しました。

当日は、昨年アフリカ「**ブルキナファソ**」のユニセフ活動を視察して来られた広島県ユニセフ協会ボランティアの今村様による報告もいただき、改めてユニセフ活動とその支援の大切さを感じることができる学習会となりました。



↑ボランティアリーダー学習会の様子

今からの予定

○昨年10月に設立の山口県ユニセフ協会を知っていただくため、3月は阿知須きららドームで開催される恒例イベント「生協まつり」に「ユニセフ紹介コーナー」を出展。4～5月にかけては県内7カ所で「ユニセフ学習会」を開催します。是非ともご参加ください！

■第43回生協まつり「**ユニセフ活動紹介コーナー出展**」（入場無料）

○世界の子どもたちの現状やユニセフ活動について多くの方に知っていただくため、コーナー出展をおこないます。チベットの子どもたちが使う真鍮製の水がめやマリア予防の蚊帳など、様々な展示も予定しています。  
 場所：山口きらら博記念公園きららドーム（山口市阿知須509番地50）  
 期間：3月24日（土）開場時間：9:30～17:00 および 3月25日（日）開場時間：9:30～16:00

■県内7会場地域別「**ユニセフ学習会**」

○世界の子どもたちの現状やユニセフ活動について学ぶお話しと、簡単なワークショップを予定しています。場所、時間は下記一覧から、お近くの会場、お手すきの日時をお選びください。お申込みは、下記山口県ユニセフ協会まで。

開催日	地域	開催場所	時間
4月18日（水）	宇部地域	<b>ヒストリア宇部</b> 宇部市新天町一丁目1番1号	10:00～11:30
4月20日（金）	北部地域	<b>サンライフ萩</b> 萩市大字土原二丁目2番1号	10:00～11:30
4月24日（火）	周東地域	<b>あいぱーく光</b> 光市光井二丁目2番1号	10:00～11:30
4月25日（水）	山口地域	<b>山口市小郡ふれあいセンター</b> 山口市小郡下郷1440-1	10:00～11:30
4月27日（金）	周南地域	<b>周南市徳山保健センター</b> 周南市児玉長一丁目1番地	10:00～11:30
5月 8日（火）	下関地域	<b>海峡メッセ下関</b> 下関市豊前田町3丁目3-1	10:00～11:30
5月 9日（水）	岩国地域	<b>シンフォニア岩国</b> 岩国市三笠町1丁目1-1	10:00～11:30

賛助会員募集！してます

日本ユニセフ協会と各協定地域組織の活動を賛助会費によって支援いただく方法です。現在山口県でも多くの賛助会員の方にご協力いただいています。山口から世界の子どもたちを支えましょう！

種類	対象	賛助会費
一般賛助会員	個人	一口 5,000円
学生賛助会員	学生（18歳以上）	一口 2,000円
団体賛助会員	団体、法人、企業	一口 100,000円

賛助会員期間は、入会日より1年間です。賛助会費は寄付金控除の対象になります。一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限らせていただきます。

いつでもボランティア大歓迎！！

ユニセフや世界の子どもたちに関心のある方はもちろんあなたの好きなことをユニセフ活動にいかしてみませんか？

♪ 絵や文章を書くのが好きな方

♪ 子どもが好きな方

♪ 手作りするのが好きな方

♪ パソコンが得意な方

♪ 学習会の組み立てを一緒に考えてくれる方 などなど



山口県ユニセフ協会

〒753-0083  
 山口市後河原210番地  
 TEL083-902-2266  
 FAX083-928-5416  
 E-mail: info@unicef-yamaguchi.jp  
 URL: https://www.unicef-yamaguchi.jp

県協会地図



ボランティア登録、資料請求、その他お問い合わせ等は、事務局までご連絡ください。また、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。受付日：月・火・水・木・金 受付時間：10:00～16:00 山口県教育会館の裏になります。